

# 暮らしの広場

**がん**

**克服へ**

【19】  
工藤 明敏

■胃がん編



カメラで胃の内側から粘膜を観察する(胃透視)で診断される

## 症状

胃に入った食べ物には発がん性のあるものも含まれています。胃液、ピロリ菌も胃粘膜を傷めます。これらの刺激によって、胃潰瘍や胃がんができるのです。

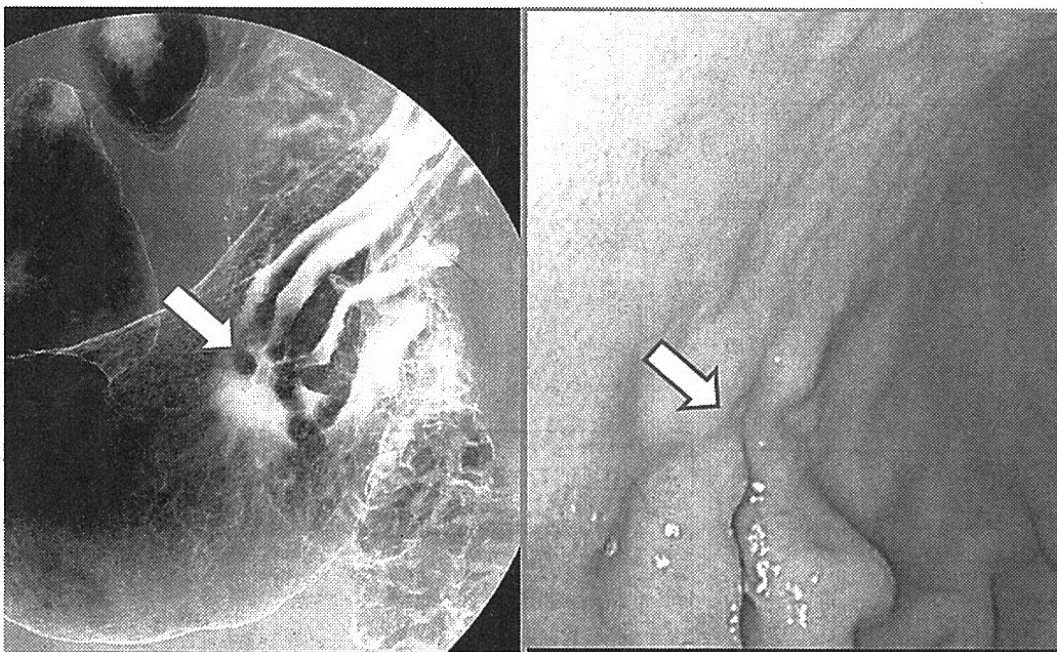
このように種々の刺激によって胃粘膜が傷害されるため、胃がんは粘膜から発生します。そのため胃がんは、胃

## 早期胃がんは自覚ない

胃がんは遺伝しません。家族に胃がんの方がいれば注意が必要です。なぜなら、親の食生活は子どもに引き継がれるため、同じような食物刺激が胃に加わっていると考えられるからです。

粘膜から発生したがん細胞は、分裂して徐々に深い層に達していきます。がん細胞が粘膜層あるいは粘膜下層までとどまっているものを早期がんといいます。早期がんの中でも、リンパ節転移のないものもある場合があります。適切な治療を行えば、95%は完治できます。

それを超えて深い部分まで進んでいる場合が進行がんです。進行がんもいろいろです。リンパ節転移も胃以外の転移(他臓器転移)も認められず手術で取りきれぬもの、リンパ節転移はあるものの手術で取りきれぬもの。他臓器転移のため手術で取りきれぬもの。高度進行胃がんも含まれます。



へこむタイプの早期胃がん、矢印の部分が胃がん。左が胃透視(便宜上、左右反転)、右が胃カメラ

多くの早期胃がんは自覚症状がほとんどありません。しかし、上腹部不快感、出血(吐血、黒色便)などを自覚すること場合は、潰瘍の症状として食欲があります。

進行胃がんの症状には、上腹部痛、食後に胃の張る感じ、もたれ感、食事つかえ感、吐血・下血、食欲不振などがよくみられます。

これらの症状は持続性で、いったん治まっても症状が再び繰り返す(再燃性)、徐々に悪化する傾向があります。さらに進行すると、胃のリンパ管や血管にがん細胞が入り込んで、胃から離れた場所に散らばって転移します。

例えば、腹水貯留(がん性腹膜炎)、便秘(骨盤深部への転移)、背部痛(すい臓や大動脈周囲への浸潤)、骨痛(骨転移)、黄疸(肝転移、リンパ節転移)がみられることもあり、体重減少、全身倦怠感が表れてきます。

最も多い再発の形式はがん性腹膜炎です。20年ほど前に亡くなられたアナウンサーの逸見政孝さんはこの再発でした。

(阿知須共立病院診療部長、外科部長)